

重点目標	担当	学校評価実施項目	学校評価質問項目もしくは具体策	教職員評価	生徒評価	保護者評価	自己評価と改善策	学校関係者評価
教育目標↓児童・生徒の障がいの状態と能力・適正等を十分考慮した教育を行い、一人一人の人格形成に努めるとともに、自立と社会参加をめざす人間を育成する	学部	個別の指導計画	「個別の指導計画」の有効な活用ができたか。	78	—	—	初任研やフォローアップ研修に伴う研究授業が多く、指導案検討や模擬授業を通して、個々の生徒の実態に合った教材作りや支援方法の検討や実践を行い、成果が得られた。来年度も同様の実践を行っていききたい。	1. 個々の学力や能力に応じた指導の徹底 各学部において、「個別の指導計画」が活用され、個に応じた学習方法の工夫がなされた。 (今後の課題) 今後も継続して、個に応じた支援を進めていく必要がある。 2. 創意工夫による教育実践の充実・効果的授業の探求 視覚障がいについての研修を進め、職員の専門性の向上を目指すことができた。また、授業研究を積極的に行い、授業改善に努力した。 (今後の課題) 教職員の専門性を高めるためには、全国大会・研究会への参加も必要である。遠方まで自費で参加した教員もおり、その積極性は評価できる。研修会等で得た情報を他の職員に伝え、情報の共有をすすめていただきたい。 授業公開をさらにを行い、授業力向上に努めていただきたい。
	教務部	学習支援	一人一人のニーズに応じた学習支援ができたか。	84	—	83	小中普は各学期に児童生徒一人一人の目標の確認、評価の検討を行った。一覧表(重複学級用)で計画を確認して教育活動を行った。検討会の時間の設定に課題がある。理療科に関しては検討会は実施していないが、理療科部会等で日常的に情報交換を行っている。	
	生徒指導部	児童生徒理解	・相談週間等、他分掌と連携しながら実施する。	—	—	—	今年度は実施していない。学部、学級単位で個々の児童生徒に対応していただいております。今年度は特に大きな問題なく指導にあたれた。来年度、保健部と相談し、実施について検討したい。	
	生徒指導部	図書館の有効利用	・図書データの管理に向けた準備をさらに進めていく。	—	—	—	着々と準備を進めている。蔵書、新書が多く、すべてをデータ化できていないが、来年度も継続して行っていく。	
	寮務部	個別の生活支援計画	個別の生活支援計画を活用し、支援の充実を図ったか。	94	—	—	「個別の生活支援計画」を活用して指導を進めた。今後も継続したい。	
	保健部	健康で安全な学校生活	生徒の健康に関する情報を伝え、外部機関と連携して健康管理をすすめたか。	92	100	83	保護者・担任・学部・分掌等と心身の健康状態について情報を共有し、主治医訪問や受診同行をして健康管理を行った。日々の安全点検、毎学期の定期安全点検、美化活動、大掃除を実施して学習環境を整備した。	
(2)一人一人の進路の実現に向けた指導や、より豊かに社会で生きる力を育てるキャリア教育の推進を図る。	すべて	一人一人の将来を見据えた教育	進路実現のために、適切な進路面談が実施されたか。	100	—	84	授業参観や懇談、家庭訪問の機会に授業の様子をビデオを見てもらうことで、実態や変容(成長)、課題の共通理解を図ることができた。福祉機関主催のケース会議の参加や、施設見学や受診同行、訓練同行で、保護者や福祉・医療機関と連携を図ることができた。	3. 進路指導の推進 理療科の補習・職場研修・外部講師による進路講話などは効果的に行うことができた。 (今後の課題) 理療科の職場研修は早い時期から計画的に行っていく必要がある。校外臨床実習の訪問先を開拓し、それを就労につなげていくことも考えていただきたい。
	進路指導部	情報提供の充実	・進路コーナーの充実を図り、活用の呼びかけをするなど、進路情報を適切に提供する。 ・学部ごとの進路説明会を実施し、進路に対する理解を深める。	—	—	—	3年生の教室には進路情報をおいたが、その他の教室にもおいた方が良かった。また、小学部玄関の進路情報をこまめに更新すべきであった。学部ごとに保護者説明会を実施した。	
	進路指導部	12年間を見通した進路指導計画	進路説明会や職場体験により十分な情報提供がなされたか。	96	77	76	キャリア教育の視点を盛り込んだ進路指導パンフレットの活用については検討に時間がかり十分ではなかった。	
	中学部普通科	進んで社会参加をする意欲と能力	・現場実習や校外学習など、実際に社会に出かけて学ぶ学習を計画・実践する。	—	—	—	生徒の実態に応じた現場実習や校外学習を実施することができた。夏休みを利用して校外に出かけるサマースクールを実施したことも良かった。年度当初に立てた年間計画をもとに、その都度必要なことを検討しながら生徒にとって有意義な校外学習を今後も継続していききたい。	
	理療科	生徒一人一人に特化した進路支援	・生徒一人ひとりがあはき師としての技量と社会人としてのマナーを身につけ、卒業後、自立できるよう進路指導部と連携して、校内・校外での臨床実習・職場実習旅行・ビジネスマナー講習等を実施する。	—	—	—	1年生から夏に施術所見学を行い、2年生は秋に職場実習旅行を、3年生は職場見学や校外臨床実習を重ねることで、また定期的に進路情報の提供を行った。その結果、3年生の就職先もほぼ順調に決定することができた。	
(3)専門性を高め、創意工夫した教育実践による授業力・生活支援力の向上を図る。	研究部	視覚障がい教育に関する研修	視覚障がい教育の専門性の維持と向上を目指した研修がすすめられたか。	81	—	—	今年度の専攻研では、拡大機能を有するiPadと小型拡大読書器の体験、触察指導を取り入れた。校内研究に沿う内容として、専攻研では医療専門学校の吉原浩二氏による「眼疾について」、校内研究では、特総研の田中良広氏の「弱視教育について」、大阪教育大学の山本利和氏の「視知覚」について研修をおこなった。 来年度は、校内研修について、講師の選定、研修内容等、連絡調整をしながら、よりよい研修になるよう図っていく。	4. 教育環境の整備と充実 図書館司書により、図書館の整備がすすめられた。県立図書館や市立図書館からも書籍を借出し、読書の普及に努めた。美化活動を計画的に行い、校舎内外の美化に努めた。放課後の会議が多い。 (今後の課題) 会議をさらに精選して放課後の時間を確保し、児童生徒との関わりを増やすこと、教材研究等の時間を確保する必要がある。月1回のNO会議デーを継続する。 5. 開かれた学校づくり オープンスクール・作品展等を通して、盲学校の広報活動を行うことができた。 (今後の課題) オープンスクール・作品展・点字ブロック啓発活動など盲学校の取り組みを、マスコミ等を利用してさらに広く広報する必要がある。盲学校のことを知らない人がまだ多い。近隣の学校(小学校・中学校・高校)への啓発活動は、さらに積極的に行う。
	研究部	授業実践による研究の推進	・「弱視教育の手引き」の改訂を通して、具体的な指導支援の方法を確認し、日々の実践を見直すことにより、授業力の向上を図る。	—	—	—	グループ研を設定し、2005年版の見直しをおこなったことにより、指導・支援の方法について意見交換及び、文献研究をする事ができ、専門性をたかめることができた。来年度は、今年度の成果と課題をもとにして、実践事例をからめながら、さらに専門性をたかめるとともに授業力の向上を図る。	
	生徒指導部	学校行事や部活動の意義を再検討	学校行事が、児童生徒の成長に役立ったか。	82	—	94	生徒会を中心に児童生徒の意見を取り入れながら行った。先生方からの反省も考慮しながら実施し、有意義な行事にできたと考える。来年度も、児童生徒数の減少、個々の実態に大きな差のある集団となるが、さらに有意義なものにできるよう検討していききたい。	
	寮務部	生活支援力の向上のための研修	・児童・生徒の実態に応じた生活支援ができるよう、研修を企画、実施する。	—	—	—	支援に関する研修を実施した。今後も継続したい。	
(4)視覚障がい教育の理解啓発を図るとともに、センター的機能の充実を図る。	総務部	ホームページ等の有効活用	ホームページや作品展を通じて、学校の状況を外部に発信できたか。	96	—	82	学園祭や体育祭の様子をHPに掲載した。行事や臨床実習室の予定などについて、月単位もしくは随時HPを允進し、情報提供に努めた。来年度もHPによる情報発信を積極的に行っていききたい。	6. 人権同和教育の推進 人権同和教育の研修会を開き、積極的に取り組んだ。人権同和教育専任教員による講話・指導を行い、意識改革を図った。 (今後の課題) 学校全体で人権同和教育の視点にたった取り組みをさらに進めていかなければならない。
	教務部	教材、教具、備品の管理と情報提供	学習への支援機器等の活用について情報提供が行われたか。	85	—	—	各学期末に児童生徒に対して教材教具のアンケートを取り、所在・不具合・不足等の確認をした。必要に応じて情報提供したり、教具の貸し出しを行ったりした。	
	コーディネーター	視覚障がい教育の理解啓発活動	・浜田ろう学校と連携して、益田地区を中心に関係機関訪問を実施する。 ・教育事務所や市町教育委員会、ライトハウスライブラリーと連携・協働して定期教育相談会を実施する。	—	—	—	浜田ろう学校と連携をして、益田地区の関係機関訪問を実施し、理解啓発をはかることができた。来年度は大田地区訪問の予定。計画通り、関係機関と連携・協働をして定期教育相談会を実施することができた。来年度も継続して行っていきたい。	
	生徒指導部	地域との交流活動の充実	学校行事が地域の協力を得て行われ、生徒の成長に役立ったか。	82	—	95	例年通りの取り組み状況であった。地道に継続していきながら、さらに有効な啓発方法を考えていききたい。	
(5)進路保障を柱にした人権・同和教育の推進を図る。	中学部普通科	自己理解や他者理解	・友だちとの関わりのなかで学び合うことのできる合同学習を計画・実践する。	—	—	—	校内での合同学習だけでなく、湖北中学校との交流学習が再開でき、お互いにメリットのある交流が実施できたことは大きな成果である。今後も継続していききたい。	
	理療科	他者を尊重する態度	臨床活動等により、他者を尊重する態度の育成が図られた。	92	—	—	今年度は、校内の教員による人権学習、アサーション学習を取り入れた授業を実施し、患者さんへの施術に関する説明等をきちんと行い、良好な人間関係作りができた。来年度以降も継続していききたい。	
	すべて	人権・同和教育	人権を尊重し、人権意識を高める教育活動が行われたか。	79	—	83	舎生会等での話し合い活動・余暇活動を通じて集団における役割と目的、意義を自覚させることができたと思われる。今後も継続したい。	